

支部長・会員の皆様

専務理事 松尾 彰

新年明けましておめでとうございます。

「本部だより NO.4」をお届けいたします。

〔同窓会の現況について〕

現在、若い年代の同窓会離れが進んでいると言われています。ここでは、広島大学工学部同窓会の現状の一端をご紹介し、これから同窓会がどのような方向に進んでいけば良いのかを考えていただく参考にしたいと思います。以下は同窓会所有の会員名簿および会費納入状況データベースより抽出したものです。

まず、図1は工学部学生の最近の入会費・10年会費（10年分の会費前払い）納入率です。30回生（平成17年入学、21年卒業）だけは他と異なっていますが、広島大学工学部に入学した学生の70%が、ほぼコンスタントに入会し会費を納入して下さっています。今年度の総会資料（平成25年度決算報告）によりますとこの10年会費収入は1578万円です。ちなみに10年会費以外の一般会員からの会費収入の総合計は約900万円となっており、10年会費が同窓会の運営にいかにより大きな貢献をしているかが理解できます。

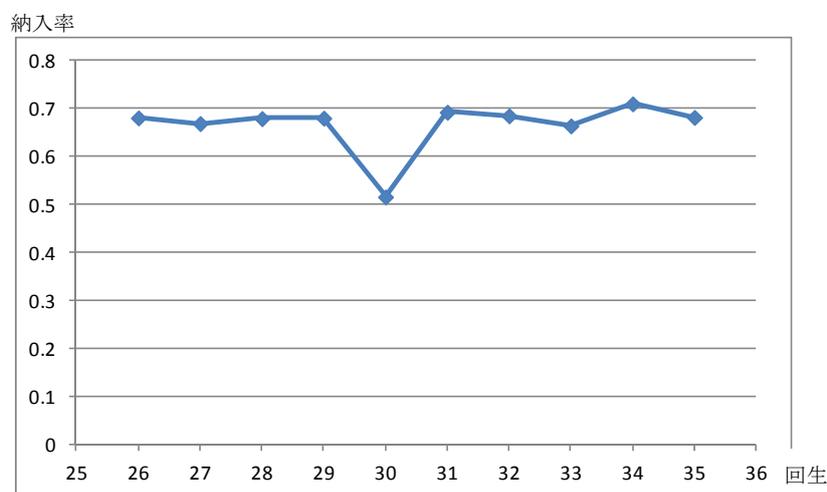


図1 最近の10年会費納入率（H17～26年卒業生）

図2は卒業後、現在まで継続して会費を納入し続けてきている会員の割合（会員定着率）の過去約40年間にわたる推移を示したものです。すなわち、10年会費制度の開始前後の卒業生（学科制昭和49・50年卒と学科制昭和52～54年卒）と類制度になってからの第1～3回生（類1回）と11～13回生（類11回）と19～21回生（類19回）の会員定着率の比

較です。10年会費開始前は定着率 50%程度でした。この年代の先輩たちは学年の半分が、会員であるという意識をお持ちです。ところが10年会費制度開始以後、定着率は学科制昭和52～54年の卒業生で18.3%、類制度になってからは、14.1%、8.7%、7.0%と低下しています。最近の定着率が7%というのは若い年代がまさに同窓会離れをしている様子を具体的に表しています。

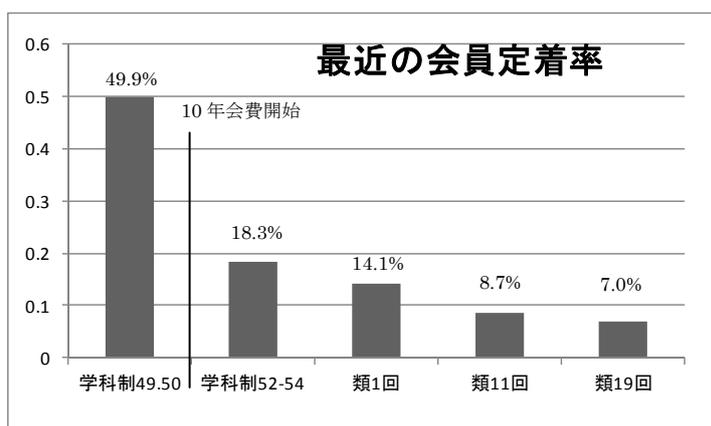


図3 10年会費開始前後からの約30年間の会員定着率(2~3年平均)

10年会費は毎年ほぼ確実に入ってくる(図1)ので、安定財源として貴重な制度であります。ただ、それは入学時に保護者が支払う上に卒業後10年間は会費請求が来ませんので、会員としての実感がわからないのも仕方ないことかと思われます。このように会員定着率低下のきっかけとなったのは10年会費制度であることは間違いありませんが、それ以外にも一学年総数の増加による仲間意識の希薄化や若年層の気質の変化なども原因としてあげられると思われます。

最近の定着率が7%というのは一学年500名としてたった35名しか、会員数を期待できないということになります。財政的にはそれ程心配はしていませんが、いずれこの年代が中心となって同窓会を運営する時代になると活動エネルギーの低下という大変深刻な問題が起こると予想されます。すなわち、ぼつりぼつりと支部が消滅し、活動の担い手(会長・副会長・支部役員・活動参加者)がいなくなることが予想されます。このままいくと、広島大学工学同窓会は絶滅危惧種となってしまいます。

とりあえずの対策としては、工学部在学中の学生諸君へ「広島大学工学同窓会」の存在を強く印象付けること。そのためには羽山会長から学生諸君に直接話しかける(同窓会をアピールする)機会(イベントなど)を作ることが必要であろうと考えています。また、卒業10年以内の若年層会員への思い切った対策が急務であると考えています。

皆様のアイデアがありましたら是非お寄せ下さい。

[広島大学(工学研究科)と広島大学工学同窓会との懇談会について]

去る 2014 年 11 月 10 日（月）に広島大学（工学研究科）より杉本工学研究院長、和根山室長が、同窓会より羽山会長、松尾専務理事が出席し、広島大学（工学研究科）と同窓会との今後のあり方について意見交換を致しました。その後の事務レベルでの打合せも含めて大略以下のような議論が行われました。

- (1) 広島大学が文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」（トップ型）に採択された。
これは世界大学トップ 100 を目指すものであり、論文数・外部資金・博士学位授与数・留学生数・日本人留学経験者数、外国語授業数、その他について、現状の 2～3 倍増が期待されている。大学の中で工学研究科は教員、学生が大きな割合を占めているので、その役割は大きい。同窓会にはグローバルな人材育成（TOEIC 受験支援、学生の海外留学支援など）のために、可能な範囲で協力をお願いしたい。（大学）
- (2) 同窓会では、これまで研究奨励費として、博士課程学生等の国際会議発表支援などを継続してきた。平成 26 年度からその形を変えて、工学部・工学研究科学生への研究奨励スカラシップ制度を発足させているが、留学支援などについてはそれを拡大した形で協力することは可能であろう。今後、TOEIC 支援も含めて母校がスーパーグローバル大学として羽ばたけるよう微力ながら協力していきたい。（同窓会）
- (3) 工学部卒業生（先輩）による「新入生歓迎講演会」を、入学式後の入学ガイダンススケジュールに平成 28 年度より組み込んでいただくよう大学側にお願いした。

注： 社会で活躍する先輩の体験談（海外・仕事・社会・大学時代などなど）は学生にやる気と刺激を与える貴重なものと考えられます。講演会の一番の難点はいくら良い内容であっても聴講者を集めるのが大変だという事にあります。その点、この講演会では 500 人の新入生を聴講者として確保できます。従って、羽山会長から新入学生に直接挨拶（アピール）をしていただけるという点で、同窓会にとっても貴重なチャンスだと考えます。最終的に大学側からの了承が得られれば、講演者リストを作成するつもりです。次回の「本部だより NO.5」でも、楽しい講演をしていただける先輩を募集致しますので、是非ご応募をお願い致します。

[支部ニュース]

支部ニュースがありましたら、本部宛てお送りください。HP トピックス欄に掲載いたします。最近のニュースは以下の通りです。詳細は同窓会HP <http://hiro-kogyokai.com/> をご覧下さい。

- (1) 応用化学 44 年卒業同期会が平成 26 年 10 月 31 日にホテルグランヴィアで開催されました。
- (2) 滋賀県支部（廣實崇司支部長）の久保幹さん（第Ⅲ類昭和 58 年卒、立命館大学教授）が平成 26 年 11 月 23 日 TBS 系列「夢の扉+」に出演されました。
- (3) 周南支部では平成 26 年 11 月 5 日に広島大学学長浅原利正先生をお迎えして、支部総会・懇親会を開催されました。

- (4) 吉川成美さん（機 33）が岐阜県視聴覚作品コンクールでNHK岐阜放送局長賞を受賞されました。
- (5) 中国電力デルタ会は平成 27 年 1 月 23 日に、恩師頼実正弘先生、佐々木博司先生、中川紀壽先生、中前栄八郎先生、山下英生先生、餘利野直人先生をお迎えして、今年度 2 回目の懇親会（参加者約 56 名）を開催されました。